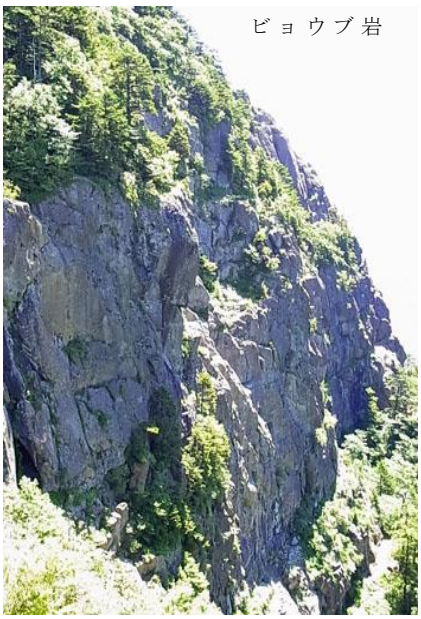
作者プロフィール
柚木 文夫氏　千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成 2 年退官 1958 年防衛大学卒

三ツ峠山－富士山の展望台－

見上げる三ツ峠山（秋）


ビョウブ岩

7 月下旬、山梨県・三ツ峠山（1786 m）に出かけた。三ツ峠山は若い頃、岩登り練習に足繁く通った山である。頂上を形造る木無山、開運山、御巣鷹山の三つの峰（三ツドッケ）が三ツ峠の名前の由来とも聞くが、諸説様々でよく分からない。

河口湖駅からのバスを三ツ峠登山口で降りたのが 10 時。トイレ完備の駐車場から始まる登山道はジープが通れる程の道幅があるが、傾斜は結構きつい。ミズナラやカラマツの中のジグザグ登りが延々と続く。道端に咲くクガイソウ、シモツケソウ、ゴゼンタチバナなどが目を和ませる。

１時間余りで傾斜は緩くなり、後は草原状の木無山をいつの間にか通過して 11 時半、三ツ峠山荘に着いた。

山荘の近くに、私も一緒の岩登り訓練中に事故死した、かっての山仲間H氏の慰霊碑がある。下から携えて来た花束を供え、石碑に酒を注ぎ、往時の若かりし頃の事故の日のことなどを思い起こし、しばし瞑想にふけった。

三ツ峠山頂上（開運山）は山荘から 15 分程。山頂には立派な方位盤があり、展望は抜群。特に裾野を大きく広げて真っ正面に君臨する富士山の眺めは日本一の名に相応しい。ちょうど 12 時。お昼の弁当を拡げ、富士山と故H氏に乾杯した。

山頂

下山は、ダルマ石ルートを下った。富士見山荘の前から階段と手すりが整備された道を下り、ビョウブ岩の基部をへツって行く。何組かの若者達が岩に取りついており、あちこちで元気な掛け声が岩壁にコダマする。小生も昔に帰って、しばしの時間を岩壁下に坐りこんで見物した。

赤い前垂れのお地蔵さんが林立する八十八大師を過ぎると傾斜は急になり、岩を越え、岩の狭間を縫う辛い下りが連続する。午後 2 時半、やっとのことでダルマ石に到着し、一息入れた。

後は、三ツ峠駅までの車道歩きとなる。憩いの森公園、三ツ峠遊園、さくら公園、三ツ峠グリーンセンターなど軒並みのキャンプ場に家族連れの歓声が賑やかである。そうだ、時節はもう夏休みなんだ。最後に市街地を抜け、三ツ峠駅到着が午後 3 時 45 分。

三ツ峠山頂からの富士山(初夏)